

授業改善推進プラン＜教科別＞

(別紙4)

学校名

旭 町

小学校

算数	課題分析 (学力調査結果、定期考査、授業の実態等)	授業改善策	補充・発展的指導計画	評価(◎○△)
1年	・計算の技能に個人差がある。指を使って考える児童が多く、答えを出すまでに時間がかかっている。 ・文章問題では、文章を読まずに立式したり、問いの意図を正確に読み取れないために、答え方が不十分だったりする。 ・自分の考えをもち、友達の考えと比べようとする児童が少ない。様々な見方でじっくりと考えようとする力が必要。	・計算カードを用いて反復練習をしたり、タブレットを活用して復習問題に繰り返し取り組んだりする時間を設ける。 ・半具体物や図などを使い、問題場面をとらえる活動を多く行う。加法・減法かを判断できる言葉を提示したり、動作化したりして、立式するよう指導する。 ・授業内容をの学力向上支援講師と相談し、支援の仕方を工夫する。自分の考えをもつためのヒントを提示し、二人組など近くの友達と考えを伝え合う場面を設定する。	・10までの数の合成・分解の問題に反復して取り組ませ、反射的に答えを出せるようにする。 ・興味関心を高められるようにICT機器を活用して、計算問題に取り組ませたり、問題作りに取り組んだりさせる。 ・担任や学力向上支援講師による個別指導で補う。	
2年	・学習の理解度に個人差がある。繰り上りの加法や繰り下りの減法に時間がかかる児童が一定数いる。 ・量感をつかめていない児童がいるため、長さや水のかさなどの単位を正しく理解できていないことがある。 ・問題文をよく読まずに問題を解く、見直しをしない、補助数字を書かずに計算する児童が見られる。 ・友達の考えに関心をもつ児童が少ない。 ・中学年の学習に向けて、自分の考えを様々な方法で説明する力を高めることが課題。	・基礎的な練習問題に繰り返し取り組む時間を設定し、素早く正確に計算する力を付ける。 ・既習内容を想起させ、具体物や半具体物を用いた授業展開を行う。 ・文章題は、文章に線を引かせるなどをして意味を正しく理解し、立式できるようにする。 ・様々な考えを取り上げ、どの考えが分かりやすいのかを考えさせる場面を設定する。 ・学力向上支援講師と支援の仕方を工夫する。	・ICT機器を活用した授業を行う。 ・授業始めの5分間で基礎的な計算の反復練習を行う。 ・理解度に合わせたプリントなどを複数用意し、自分に合った課題を選択して学習に取り組ませる。 ・担任や学力向上支援講師による個別指導を行い、児童間の理解の差を補う。	
3年	・九九の定着が不十分な児童が2割程度いる。そのため、除法の処理能力も身に付いていない。繰り上りの計算はできるが、繰り下りのある引き算になると誤答が増える。時刻や時間を求める問題に苦手意識をもつ児童が多い。 ・既習事項や図、表、数直線などを活用して自分の考えをまとめたり、説明したりすることに積極的に取り組める児童と苦手意識を感じている児童とに分かれている。 ・テストで間違えた問題を解き直すよう指導しているが、取り組もうとしない児童もいる。テストや練習問題などでも見直す力がついていない。	・課題の分析結果や系統性を重視した練習問題プリントを作成し、朝学習や家庭学習で取り組ませて基礎学力向上を図る。具体物や半具体物の使用から抽象的思考にスムーズに移行できるようにする。 ・共通のノート指導を行う。課題解決に向けて、系統性や既習事項を確認させる。友達との意見交流の時間を確保して繰り返し指導する。 ・間違えた問題の見直し時間を確保する。	・必要に応じて個別指導で補う。苦手な項目では前学年に戻って指導を行う。習熟している児童には、応用問題、発展問題に取り組ませるようにする。 ・学習の流れを統一する。 ・習熟度別に課題や教具、指導方法を工夫する。タブレットのQRコード付き教材やICT機器を活用する。	
4年	・問題を読み飛ばす、九九が定着していないなど基礎学力の定着に大きな個人差がある。3桁の乗法、除法の筆算に時間がかかる。九九表を手放せないことが課題。また、単位換算ができない児童が多い。 ・既習事項や図、表、数直線などを活用して自分の考えを書いたり、説明したりする思考力・判断力・表現力に課題がある。 ・計算問題、筆算、分度器、コンパスの使い方など、知識・技能の分野の定着が課題。	・朝学習や家庭学習で活用できる練習問題プリントを作成し、基礎学力向上を図る。少人数指導を生かし、補充学習時間を設ける。 ・共通のノート指導を行い、系統性や既習事項を意識させる。友達との交流の時間を確保する。考え方の大切なポイントをヒントカードとして提示する。 ・作図練習を行うなど、繰り返し指導する。デジタル教科書を活用し、動画で確認しながら操作させる。	・児童の実態に応じた個別指導を行い、習熟を図る。レディネステストからクラス分けをし、実態に応じた学習内容にする。 ・必要な児童には、中休みの補習を行う。 ・習熟に応じたプリントやドリルパークなどを積極的に活用し、課題に取り組めるようにする。	
5年	・既習事項を活用した課題解決に個人差がある。自分の考えを図や数直線などを用いて説明することが課題である。 ・基本的な計算技能にも個人差があり、個別の支援が必要である。 ・友達の説明を聞きながら自分の考えと比較したり、説明を理解したりすることはできるが、自分の考えを深められない課題がある。	・思考力・判断力・表現力の育成に向け、系統性や既習事項を確認する。既習事項の振り返りを大切にし、過去の学習と現在の学習を結び付けることができるようにする。 ・計算や作図練習を行うなど、繰り返し指導する。ICT機器を活用する。 ・児童の考えを全体で取り上げ、意見を出し合い、考えを深める機会をつくる。誤答や途中式、数直線などを提示して、多面的に考えさせる。	・課題の分析結果や系統性を重視した練習問題プリントを作成し、基礎学力向上を図る。ドリルパークを活用し、個人のニーズに合った学習ができるようにする。 ・児童の実態に応じた個別指導を行い習熟を図る。 ・ICT機器を活用し、児童が様々な考えを比べられるようにする。	
6年	・基礎学力の定着に大きな個人差がある。既習事項が身に付いておらず、積み重ねがないため新たな課題解決が困難な児童が一定数いる。 ・単純な計算問題よりも文章問題の正答率が明らかに低い。 ・なぜそのような答えになったのか、どのように考えたかなど、図や式、言葉で表現することに課題がある。	・児童の理解が追いつかない部分を見付け、小さなステップで理解できるよう授業の流れを工夫する。授業の前半で既習事項を振り返ったり、既習事項を定着させる問題に取り組ませたりして積み重ねをする。 ・文章問題を解く際にどの言葉に注目したらよいかなどのコツを教え、意識して取り組ませる。 ・自由に課題解決に向けて話し合う時間、ペアで発表に向けて説明の仕方を話し合う時間を分けて設定する。図や数直線などを意識的に使わせて、他者に分かりやすい表現を身に付けさせていく。	・全体指導や個別指導を精選しながら授業を展開する。 ・レディネステストからクラス分けをし、苦手な部分の課題を解決できるようにする。また、教科書の内容を基礎としながら、各コースに沿って柔軟に授業を行う。 ・学習理解を深めるために有効な場合は、ICT機器を積極的に活用する。	